



学校教育目標 広い視野と豊かな心を持った、健康でたくましい生徒の育成

東中だより

圓 困 目 標

- ・健康でたくましい生徒
- ・人の心の痛みが分かり、思いやりのある生徒
- ・進んで学び、感動できる生徒
- ・規律を守り、責任を果たす生徒
- ・厳しさに耐え、自ら努力する生徒

5月の行事（3学年の修学旅行）

3学年 奈良・京都への旅

5月17日（水）～19日（金）の2泊3日の日程で、3年生が修学旅行に行ってきました。訪問地は、奈良、京都です。

教職員が考えた実施の目的は、以下のようなものでした。

- ①学校生活でこれまでに培ってきたものを生かし、社会人として必要な知識、マナーを学び、よりよい人格形成に向けての一助となる機会とする。
- ②奈良や京都において日本の歴史や文化を五感で感じ取り、理解を深める機会とする。
- ③集団としての質の向上と人間関係を深める機会とする。
- ④事前学習を通して、課題や目的をもって主体的に学習する力をつける機会とする。
- ⑤生涯の良い思い出となる体験とする。

取組の中で、生徒たちが自主的に設定したテーマは、「一世代の修学旅行 ～Pieces of Memories～」でした。3年生の生徒たちの意気込みが感じられます。このテーマを設定した理由は、「みんなで楽しく学び、成長して、一生に一度の修学旅行を思い出の残るものにしてほしいから」とのことでした。

そして、次の事柄を学年みんなで意識して行動していくことが確認されました。

- ・時間を守ること。
- ・ルールやマナーを守ること。
- ・あいさつをしっかりとすること。
- ・仲間で支え合うこと。
- ・はじめをつけること。
- ・人の多いところでは、感染症対策を徹底すること。
- ・公共のものや歴史的建造物を大切にすること。

全体的な結論からお伝えしますと、生徒たちは、本当にこの通りに行動する素晴らしい3日間を過ごしていました。

■1日目

前日までの天候と異なり、とても暑い日となりました。



学校から三島駅までバスで移動し、新幹線で京都へ向かいました。途中の車内では美味しいお弁当をいただき、京都駅からは再びバスで世界遺産の地、奈良に向かいました。バスの車内では、バスガイドさんの問いかけにも爽やかに受け応え、楽しくやり取りしながら奈良に向かいました。途中、平城京跡に再建されつつある朱雀門などの建造物を車窓から眺めましたが、「西暦710年頃からここが日本の中心地だった」ということが実感されました。



まず、世界最古の木造建築、法隆寺に到着です。とても暑い中でしたが、マナーよくスムーズに行動・見学していました。金堂や釈迦三尊像、五重塔、聖徳太子の姿とされる夢殿の救世観音像（特別公開中）などを



見学しました。当時、ヨーロッパからのシルクロードの最終地点であった奈良は、同時に世界の文化への窓口でした。その先進の地、法隆寺



で、生徒たちはどのようなことを感じたのでしょうか。

次に訪問した東大寺は、ある意味で法隆寺以上にインパクトがあったかもしれません。それは、世界最大の木造建築である大仏殿と大仏様の大きさに圧倒されていたからです。しかし、このように大きな大仏殿も2度再建されており、奈良時代当時のものと比べると3分の2程度の大きさでしかないことを聞き、驚いていました。仏教の力で国づくりを行おうとした当時の人々の想いとエネルギーの大きさが感じられるようでした。



その後、奈良公園の鹿と仲良くしつつ、興福寺まで歩きました。奈良時代当時は、やはりとても大きなお寺でした。宝物館を見学し、阿修羅像など、教科書や



資料集などでしか見たことのない本物に触れることができました。五重塔は、新型コロナウイルス感染拡大による原材料費などの高騰もあり、修復工

事が遅れていたようで、今年の7月から全面を覆って10年間の修復工事に入るそうです。ですから絶好のチャンスで見学することができたこととなります。生徒たちが再度興福寺を訪れて生まれ変わった五重塔を見上げることができるのは、25歳のときとなります。



す。どのような大人に成長しているか、五重塔を見上げながらとても楽しみな気持ちになりました。

聖徳太子、天智天皇、天武天皇、持統天皇、聖武天皇など、当時の人々がどのような願いを込めて国づくりを行ったか、これからの自分の人生と重ね合わせて考えて欲しいと思いました。

ちなみに、この日は、偶然にも、上皇・上皇后様ご夫妻が奈良を訪れ、私たちが法隆寺へ行く前まで、法隆寺隣の中宮寺を訪問されていました。そして、お2人がお泊まりになっている興福寺隣のホテルの横を通り過ぎ、京都へ向かいました。この偶然と見学によって、2,000年続く日本の皇室の歴史を肌で感じることできる奈良訪問でした。

生徒たちの姿は大変素晴らしく、暑い中、へこたれ

そうな仲間にも手を差し伸べ、手を引っ張ってあげるなどの仲間を思う行動が、男子にも女子にも見られました。修学旅行を絶対成功させようとする、クラスと学年のリーダー集団の言動、一人一人の意識と行動、仲間同士のお互いの関係性など、本当に素晴らしい一人一人と集団の姿でした。バスガイドさんや運転手さんも、そのことをしっかり感じてくださっているようでした。外部の方々のそういった評価については、生徒たちにも自信を持ってもらいたいと思っています。

奈良の街からようやく京都の宿に到着し、素敵なホテルに胸が躍ります。何よりお腹がペコペコでした。夕食はビュッフェ形式だったので、食べたい料理を自分で盛り付け、新型コロナウイルス感染症により黙食ばかりであった味気ない食事から一変し、楽しくコミュニケーションを図りながら、本当によい笑顔での夕食タイムとなりました。



■2日目

いよいよタクシーによる京都班別自主行動の日が訪れました。事前に自分たちで調べながら計画したコースを、運転手さんのガイドとともに巡ります。生徒たちの活動の様子を1日観察する先生方も京都の街を巡ります。見知らぬ大都市で自分たちで助け



合いながら行動していましたが、やはり、先生方と出会うとホッとするのはないでしょうか。公園で遊ぶ



幼い子供が、時々親元に戻ってホッとしてみたい遊びに向かうように、生徒たちは先生方とのつかの間の出会いにホッとしてみたい京都の街に出向いていきました。

いろいろな人たちと出会い、歴史を生き抜いてきた本物を見学し、仲良くなった運転手さんからも多くのことを学んで、様々な体験をして生徒たちは宿に戻ってきました。前日の見学では食べられなかったアイスクリームやデザートも、暑い京都の街で



はとても美味しかったことでしょう。また、外国の方とコミュニケーションし、親交を深めたグループもあったようです。

宿に帰ってきた生徒たちは、本当に素敵な、明るい、充実した表情でした。1日の様子を聞くと、「歴史があまり好きではなかったけど、今日1日で好きになりました」という生徒もいました。

お腹ペコペコで戻った生徒たちは、美味しいホテルの夕食を楽しんでいました。よく食べてくれるので、レストランのスタッフはとても喜んでくださいました。ですから、1日目より量を増やして作っていただきました。



ですが、ただ美味しいだけではないのが東桂中学校の生徒たちの優れたところです。レストランスタッフの片付けのことも考え、各テーブルでは、食べた後の食器類もとても整然と整頓されています。

後述しますが、スタッフの方々も、感銘を受けていました。

夕食後には、クラスごとに、班別自主行動での一日の学びを発表し合う時間が設けられました。体験したことや印象に残ったことを披露し合い、お互いの学び合いによって自らの学びを

深める「協働的な学び」が東桂中の教室ではなく京都で展開されていました。発表者一人一人の方を見て、それぞれが学んできたことを



を受け止めつつ、自分の体験と重ね合わせながら、自分の学びに生かしていました。各担任の先生方も、改めて山梨で待つ家族の支えによってこの学びが成り立っていることや、学んできたことをどのように今後の生活や人生に生かしていくかなどについて、まとめの話をしていました。まさに、「修学」の旅になっていたと思います。

■ 3日目

天気予報通り、あいにくの雨になってしまいました。気温がぐっと下がり、寒ささえ感じるくらいでした。

しかし、最終日の見学も充実していました。まず、三十三間堂を訪れました。長さ120メートルの細長い堂内に、整然と並んだ1001体の千手観音様に圧倒されました。今後の3年生の集会以での整列のモデルにもなる観音様の整列でした。ある生徒と堂内を歩き

ながら、旅行に持ってきているカメラのメーカーを尋ねました。その生徒はキャノンのカメラを持ってきたとのことでしたので、次のようなお話をしました。昔、ある小さな会社の社長さんが京都高台寺を訪れ、住職に、「今回、我が社は何でもきれいに写せるカメラを開発しましたが、我が社の社名はどうしたらよいでしょうか」と相談したそうです。住職は、「何でも見通せるのは観音様しかおらん」と答えたそうです。そこで、観音（かんのん）からキャノンの社名が生まれたそうです。これは、現在では比較的知られるようになったお話ですが、人生がさらに進み、再度京都を訪れたとき、生徒たちはどのようなことを感じ取り、心に写すようになるでしょうか。同じものを見て感じ取るものが変わってくる、それが人間の成長とも言えるのかもしれない。

続いて、高台寺隣の清水寺を訪ねました。まず、参道の途中のお店で清水焼絵付け体験を行いました。限られた時間でしたが、創意工夫した絵を上手に描いていました。少ししたら焼き上がったコーヒーカップが学校に届くと思います。楽しみです。その後、参道を登り切ったところの大階段で学年全員の集合写真を撮りました。傘をさしながら整列し、一瞬の間みんな傘を降ろし、少しだけ雨に濡れながら撮影した集合写真も、よい思い出となったかもしれません。



その後、清水の舞台に上り、霧の京都の街や景色を眺めました。生徒たちはお土産の購入もしたかったので、参道方面に戻り、思い思いにお土産を選んでいました。最後は参道を下り、豆腐料理のお店で



最後の昼食をいただきました。晴れていれば、レストランの大きな窓から京都の街が一望できたと思います。

過ぎてみればあっという間に終わった修学旅行でした。帰りのバスでは、「宿のベッドに愛着が湧いた。もっと泊まりたい」などの声が聞かれました。

今回、生徒たちの様子を最も近くで見ていたホテルのレストランの店長さんと従業員の方に、生徒たちの印象や仕事への想い、中学生へのメッセージを聞いてみました。次のような内容でした。

- ・全国からいろいろな生徒さんが宿泊されますが、中にはとても大変な学校もある中、東桂中の生徒さんはマナーもよく、本当に素晴らしい姿でした。
- ・とても美味しそうに気持ちよく食べてくれたのも嬉しかったです。
- ・お互いの見学地について学び合っていることも素晴らしいかったです。
- ・食事の片付けもしっかりきれいに整頓していただき、ありがたかったです。本当に素晴らしいです。
- ・国内外からたくさんの方々を訪れますが、フードビジネスに携わっている者として、原材料費の高騰、国や宗教による食べ物制限などもある中、全てのお客様のために高いクオリティの料理を出し続けたいし、低い評価は受けたくないと思っております。
- ・自分は就職において、情報一つ手に入れるにも苦勞をしましたが、今は便利なネット環境もあり、恵まれていると思います。このような恵まれた環境を正しく活用して行って欲しいと思います。
- ・これからの人生の中で、経験することをすべて生かして、人生を楽しみ、いろいろなことに挑戦して行って欲しいです。

このような内容は、学校へ戻っての解団式の折に、生徒たちにも伝えました。外部の大人が3年生を見て思った素直な感想は、ぜひ、自分たちの自信にしてこれからの成長の糧にして欲しいです。

歴史と自分とのつながり、世界と自分とのつながりなど、それぞれの生徒がいろいろなことを感じ、考えてきた修学旅行でした。この経験を、自分の人生、生き方、これからの進路に向けた取組に生かして行って欲しいと思います。出発前、3学年では、修学旅行のしおりの予算のページでこの旅行が総額いくらかかるのか、確認していました。この修学旅行がどのようにして成り立っているのかを考え、「恩」という心の働きをより一層育てて欲しいと願います。

教育課程に位置付いた3年間の校外学習

自然発生的な関係で教育が行われる家庭とは異なり、学校は、意図的・計画的・組織的に教育を行う場です。そのためには、国の学習指導要領に則った教育

計画である「教育課程」が必要です。

本校の教育課程において、3年間の校外学習について捉えてみると、まず、1年生は、自分のふるさととその周辺、山梨県東部と富士五湖地方の人や自然、文物に触れる体験学習がメインとなります。本校では春と秋に2回行われ、学習した内容は、自分自身の学びの成果としてまとめます。

2年生は、「社会体験学習」として山梨県全体を対象にし、自分の住む地域から山梨県全体へと視点が広がります。その後、職場体験学習において、人生の時間軸の中で自分の人生の方向性を考えるための体験学習を行います。世の中はどうなっているか、その中で自分はどのように人生を歩んでいくか、職業選択はどう考えればよいか、働く人々はどのようなことを考えているのかなどを実際に見聞きしたり体験したりします。そういう活動を通して、日常生活の自分の過ごし方や学びはどうあったらよいのかなどを、自分の人生との関わりの中で考え、学んでいきます。

3年生になると、1、2年生までの校外学習における学びを基に、広く、日本全体や世界へと視野を広げていきます。自分の人生の時間軸の中で、中学校卒業後はどうあったらよいのかの具体的な進路選択にもつなげていきます。修学旅行後、3年生の生徒たちは、各上級学校の説明会やオープンスクールなどに参加していくこととなります。東桂中学校でも、各高等学校を招き、説明会を行う予定です。

このように、生徒たちは、「自分・ふるさと(の人々)→より広いエリアの相手・第三者・山梨県全体→社会全体・日本・世界」というふうにより、発達段階に応じて視野を広げていきます。教育課程は、その発達段階に沿うように仕組みられ、教育活動が展開されます。

1年生の保護者の皆様は、このような今後2年間の流れを、2年生の保護者の皆様は昨年度までの流れと来年度の流れを、3年生の保護者の皆様は、過去2年間の流れと今後の取組及び卒業後の生活をそれぞれ意識して、学校教育活動をご家庭におけるお子様の養育や教育に役立てていただければありがたいと思います。

学校が、教育課程を通してどのような人間を育てようとしているのかということをお伝えしましたが、これからもご家庭や地域の皆様と力を合わせて教育活動を展開してまいりたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。